

平成 15 年 8 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社ラック  
 代表者の役職氏名 代表取締役社長 三柴 元  
 (コード番号：4359)  
 (URL <http://www.lac.co.jp>)  
 問 い 合 わ せ 先 取締役管理本部長 大橋 洋一  
 電 話 番 号 03(5537)2600

平成 15 年 12 月期中間単独業績予想及び  
 通期単独業績、期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 15 年 5 月 20 日に公表いたしました平成 15 年 12 月期(平成 15 年 1 月 1 日～平成 15 年 12 月 31 日)の中間単独業績予想及び通期単独業績、期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 15 年 12 月期単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 15 年 1 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想(A) (平成 15 年 5 月 20 日発表)	1,850	330	355
今回修正予想(B)	1,745	413	476
増減額(B-A)	104	83	121
増減率(%)	5.7	-	-
(ご参考)前期実績	2,369	52	23

(2) 修正理由

売上高は、システムインテグレーション事業においては、ほぼ想定どおりに推移いたしました。が、セキュアネットサービス事業における受注が想定を大幅に下回った結果、全体では 17 億 45 百万円(前回予想比：1億 4 百万円の減少)となる見込みであります。

この主な要因は、変化の激しいセキュリティ市場の成長が、当社の想定ほど伸びなかったこと、その中で営業部門と作業部門との調整不足等、販売体制の不備によりサービス売上が落ち込んだこと、競合商品分析や製品改良の遅れにより自社製品販売が不調であったことによるものであります。

経常損失につきましては、上記のとおり利益率の高い自社製品売上やセキュリティサービス売上が落ち込んだことにより、前回予想3億30百万円に対し、4億13百万円(前回予想比:83百万円の損失拡大)となる見込みであります。

中間純損失につきましては、上記の影響のほか、投資有価証券評価損が生じたことにより、前回予想した3億55百万円に対し、4億76百万円(前回予想比:1億21百万円の損失拡大)となる見込みであります。

(3) 通期(平成15年1月1日~平成15年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成15年5月20日発表)	5,000	100	45
今回修正予想(B)	4,360	309	375
増減額(B-A)	640	409	420
増減率(%)	12.8	-	-
(ご参考)前期実績	4,794	312	174

(4) 修正理由

売上高は、中間期の実績を踏まえ、通期の計画を再度精査した結果、企業のIT化投資の抑制が引き続き予想されるため、前回予想の50億円から43億60百万円へと減少を予想しております。

セキュアネットサービス事業においては、セキュリティのインシデント(事件)等の発生を受け、コンサルティング・検査・監視サービスの受注が引き続き好調に推移するものと予想していましたが、実需の本格化にはやや時間がかかるものと見られることから、前回予想の29億円から22億3百万円へと大幅な減少を予想しております。

一方、システムインテグレーション事業において既存顧客からの継続案件の受注は比較的堅調に推移すると予想されるものの、新規システム開発の受注は引き続き厳しいと見られることから、前回予想の21億円から21億57百万円へとほぼ横ばいを見込んでおります。

経常利益は、売上の減少が影響し、下期からの経費削減を見込んで固定費等の増加を吸収できない見通しであるため、前回予想の1億円に対して4億9百万円減の経常損失3億9百万円を予想しております。

これにより、当期純利益は前回予想の45百万円に対して4億20百万円減の当期純損失3億75百万円を予想しております。

なお、前回予想の1株当たりの期末配当金500円については、今回無配とさせていただきます。

(5) 今後の取り組みについて

私どもは、平成15年12月期において、二度にわたり業績予想を修正するに至ったことを深く反省しております。

セキュリティ市場の成長性はあると考えておりますが、変化が激しく予測が難しい状況のなか、計画達成に向けて、以下のとおり取り組んでまいります。

< 全社の取り組み >

．社内管理体制の強化

- 1．組織改革の実施
- 2．社内改革プロジェクトの発足

実効性のある会議体の運営、効率的な社内システムの導入など経営管理体制の強化を図るため、社長室に社内改革プロジェクトチームをスタートさせました。

．コスト削減の徹底

本年7月より役員報酬の減額、幹部社員の給与減額などによる人件費の削減、併せて諸経費全般の削減を実施するとともに今後、事業推進に適正な人員構成ならびに設備を再検討して、採用計画を含め合理化策を実施してまいります。

< SNS事業の取り組み >

．ストックビジネスの拡大

- 1．JSOCの既存市場への営業強化

セキュリティ市場の創出に向けスタートした監視ビジネスは、現在本格化に至っておりませんが、引き続き当初からのターゲットであるグローバル企業、官公庁に対して深耕開拓と新規開拓を積極的に推進いたします。

- 2．JSOCの新市場への進出

インターネット社会における顧客の多様なニーズを的確に捉え、データセンターやプロバイダーなどへの営業展開により、新たなターゲットとして中小企業、コンシューマーを対象とする市場への進出を目指してまいります。

．自社製品の商品力の増強と拡販

広範囲な情報ネットワークにおいて個人情報を取り扱われる機会の増加に伴い、個人情報漏えいから個人情報を保護するために、自社製品のSNSInspector、LivingPolicyの商品力を増強するとともに認証、ディスク暗号化製品、Webコンテンツ利用制限ソフト、多機能認証システムなどにSNSInspectorをバンドル（搭載）させ、個人情報保護対策製品として積極的に販売してまいります。

< S I 事業の取組み >

グローバルコスト提案型営業の推進

プロジェクトマネージャの管理能力強化を図り、良質で安価な海外外注先を積極的に活用して、コスト競争力のある生産体制を整え、グローバルコスト提案型営業の推進し、新たな受注獲得を図ってまいります。

(注) 当資料に記載する業績予想・見込みは、現時点において入手可能な情報に基づき、独自の判断により作成しておりますが、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります、実現を保証するものではありません。

以 上